

「浜松市の無形民俗文化財」教材用資料

ふりがな	かつ さか か ぐ ら	担い手	勝坂神楽保存会
名 称	勝坂神楽	文化財指定	市指定 昭和41年(1966年)
場 所	天竜区春野町豊岡224-1 清水神社、八幡神社 勝坂神楽伝承館	開催日	10月 最終日曜日
概 要	勝坂神楽は、天竜区春野町豊岡の勝坂地区において400年以上前から続く五穀豊穡(お米や作物がたくさん育つこと)や子孫繁栄(家族がずっと続くこと)を祈願する伝統芸能であり、例年10月末に祭礼を行っている。牡丹柄をあしらった女物の着物に獅子頭という出で立ちが鮮やか。		
起 源	慶長6年(1601年)10月29日、犬居郷勝坂村において南宮様という神様のお宮の建舞神事が行われた。その際に、村人の一人『森山の源助』と名乗る人が神楽男となり神楽を奉納したことがはじまりという。		
演目・楽器	正午に旧勝坂小学校を出発し、道中舞を披露しながら清水神社へと移動する。行列は保存会役員、神主、亀、獅子、笛太鼓、舞い子の順に並び、獅子は右手に鈴、左手に幣(ぬさ)を、舞い子は右手に扇、左手に幣を持っている。清水神社境内へ着くと神楽出囃子(でばやし)が奏され、獅子による幌舞(ほろまい)と幣舞(ぬさまい)が奉納される。獅子舞が終わると神事が行われ、その後、道中舞を披露しながら八幡神社へと移動する。そして、八幡神社でも幌舞と幣舞が奉納される。 【幌舞】 獅子の胴体部分にあたる幌を使って巧みに舞う様子から幌舞と名付けられている。獅子頭を被った者が前の幌を両手で広げ、後ろ部分は別の者が広げて持つというように、2人で獅子を演じる。まず、頭部分が低くなり、後ろの者は幌を広げたまま立って構える。頭が立ち上がると前進、後退、そしてその場で、さらに右へというように舞う。 【幣舞】 幣束を持って舞う様子から幣舞と名付けられている。幌は後ろにまとめられ、一人で獅子を演じる。まずは幣だけを持って舞い、途中から右手に鈴、左手に幣を持って舞う。そして、最後はまとめてあった幌を解き、獅子頭を被っている者とは別の者が持って広げ、終わりとなる。		
変遷 現在の姿	保存会メンバーの高齢化、継承者不足が進むが、平成28年(2016年)から大学生を中心としたNPO法人わたぼうしブランドデザインの協力を得て継続している。		

●作成年月日／令和6年9月30日現在の情報

